

B-20 ワイシャツの洗たくに関する消費科学的研究 — 長期実用試験について (オズ報) —

○ 立正女大家政西出伸子, 東京家政学院家政吉永ミ, お茶の水女大家政林雅子, 矢部章彦, 東京友の会堀志津

目的 TC混紡ワイシャツの適正な洗たく法を見出すため, 主婦(1)手洗, (2)機械洗(3)特別な熟練者による機械洗(4)専門業者(5)一般の小クリーニング店, (6)大クリーニング業者)の5つの異った洗たく法によって長期着用洗たくを行った結果生じた劣化の差異について吉永等は主観的結果を発表したが, 今回は物理測定等を行った。

方法 着用割り付け表により汚染を均質化し, 洗たく法は(1)(2)(3)はLAS系市販洗剤を配布し方法は規制せず, (4)(5)は一般顧客として依頼し, 30回の着用洗たくを繰返したワイシャツを8部位に裁断し厚さ, 重量, 通気度, 糸密度, 剛軟度, 防シワ率, 混紡率, 白度, 蛍光強度, 又カラー, カフスの芯地の接着状態について赤外分光光度計で測定を行った。

結果 重量, 通気度, 蛍光強度は(2)(4)(5)の低下が大であった。厚さは(5)のみ変化なく他は僅かに増大を示した。剛軟度はタテ, ヨコ方向共に柔らかさが増大しているが(5)は最少であった。防シワ率は(5)が極めて少く糸密度による収縮率は(4)が顕著であり, 白度は(4)のみ低下し, (5)の上昇率が大きかった。混紡率は(4)(5)において綿の減少が顕著に認められ, 洗たく法による機械力の差および(5)においては糊つけの効果が認められた。

カラー, カフスのパツカリングは芯地使いおよび収縮率の差, (5)のカラー先端の汚染は過量の接着剤の洗たく, プレスの繰返しによる浸出によることがわかった。